

おりに20年監禁か

障害男性を保護、父逮捕

兵庫県警

兵庫県三田市で障害のある男性(42)が自宅敷地に建てられたプレハブ内のおりで生活

させられていたことが7日、同市などへの取材で分かった。男性に顕著な健康被害はない

が、20年以上おりで暮らしていた可能性がある。市は虐待の疑いがあるとして男性を保護し、福祉施設に入所させた。

市は2月、県警に通報。県警捜査1課などは今月7日、監禁容疑で父親の同市広沢、無職山崎喜胤容疑者(73)を逮捕した。容疑を認め、「息子が暴れるから」と話しているという。

逮捕容疑は1月18日午前10時ごろ～同19日午後10時ごろ、自宅で長男の男性を木製のおり(幅約1・8メートル、奥行き約90センチ、高さ約1

メートル)に閉じ込めるなどした疑い。

市や県警によると、1月16日に福祉関係の相談員から「行動を制限されている男性がいる」と連絡があった。市職員が同18日に訪問したところ、プレハブのおりの中に男性が座っていた。おりには南京錠が付いており、ペット用のトイレシートが敷かれていた。毛布のようなものもあったという。プレハブにはエアコンや暖房器具などがあった。

男性は若い頃から、おりに入っていたとみられる。食事や入浴は自宅だったが、2日に1度だったという。障害者手帳を持っていたが、福祉サービスは利用していなかった。

(時事)